

HbA1cの表記(数値)が変わります！

HbA1cは過去1～2カ月の血糖値の平均を示すもので、糖尿病の診断に用いられます。
2013年4月から、国際標準化に伴い、健康診断や人間ドックでの検査結果に表記されるHbA1cが変わりました。
例えばこれまでのHbA1cが6.1%だった場合、新しいHbA1cでは6.5%と表記されます。これは、実際に血糖値が上がったわけではありません。日本独自の表記方法を国際的に広く使われている表記に変えただけです。



これまでのHbA1c → JDS値
新しいHbA1c → NGSP値 と呼びます

※NGSP値はこれまでのJDS値よりおよそ0.4高く表記されます。
以前の検査結果と比較するときには、0.4差し引いた数値で
比べてください。

2013年4月から、原則としてHbA1cはNGSP値で表記します

過去の検査結果を表記する場合や、参考値としてJDS値を使用する場合があります

JDS値 + 0.4 = NGSP値 の式で、ほぼ換算できます

HbA1c(NGSP値)が・・・

6.5%以上	6.0%以上	5.6%以上
糖尿病型と判定します。医療機関での精密検査や治療が必要と考えられます。	空腹時血糖が110mg/dl以上であることを示し、糖尿病の疑いがあります。メタボリック・シンδροームを判定するときの基準にもなります。	血糖値がやや高めであることがあり、糖尿病を疑う場合もあります。保健指導や栄養指導を利用し、予防・健康づくりを行いましょう。

※上記はあくまで目安です。かかりつけ医や主治医がいる方は、その指示に従ってください。

●「精密検査が必要」・「要医療」の判定があった場合は、必ず医療機関を受診してください。

＜ご不明な点は、下記までお問い合わせください＞